

## 広東財經大学留学プログラム報告

広州空港からバスで数十分の距離にある広東財經大学に行った。この大学は多摩大学とは違い多くの学生が通う学校で規模は2万人を超えるそうだ。まず驚いたことは、学校の敷地内に学生寮、病院、銀行、郵便局、そしてホテルがあることだ。教授用の寮もあるそうだ。敷地内にあるホテルはとても綺麗で僕たちはそこに滞在することになっていた。ホテルに着くと案内が始まり学校を大まかに見ることができた。とてもゆとりのある敷地内には運動場もあり、そこには軍服を着てなにやら行進している人たちがいる。案内役から話を聞けば、それは今年入ってきた学生だそうだ。中国は徴兵制ではなく個人の希望で訓練には参加でき、広東財經大学の1年生は2週間訓練をしているそうだ。因みに広東財經大学は秋学期入学だそうでちょうど訓練の様子を見ることができた。

次に図書館も見せてもらったが、とても大きく会社のビルのようにであった。中は中央が吹き抜けのようになっていてゆとりがあり天井が高い。学生から話を聞くと、たいていここで勉強をすることが多いらしい。寮やアパートの作りは日本とは違い鉄格子で囲われていた。空き巣対策でついているそうだが、そのせいか女性の下着などが見える位置に干されていることには驚いた。食堂は3つあって朝もやっているの、朝食を買いに来る学生も見受けられた。コンビニはあるが、高いのであまり利用しないらしい。敷地代を支払って学内に店を開いている人もいた。広東財經大学を出ればすぐ商店街がありとても過ごしやすい環境だと思った。総じて団地の中に学校があるという印象だった。

同時翻訳の授業の見学では、机の並びがコの字になっていて全員が見やすく工夫されているつくりになっていた。1人1人の机にはマイクが取り付けられており発言者はそのマイクを使って質問していくスタイルらしい。マイクが多いせいかマイクトラブルが多く見受けられた。

この留学プログラムでは学生交流だけでなく企業の訪問があり、今回は明治アイスクリーム、广汽トヨタ、ホンハイの3社に赴いた。ホンハイは台湾企業でシャープを買収し液晶の技術を取り入れたいと話していた。工場は広くアイフォンの製造も行われているそうだ。他の会社は日本でなじみのあるメーカーだが、製品自体は中国の趣向に合わせて作られており、独自開発をしているとのことだ。車メーカーが中国に進出するには現地のどこかの企業と合併しなければならないという決まりがあつて資本率も50%ずつとなっている。給与は中国の大卒で4000元ほどらしい。なおプログラムに参加した時のレートはおよそ6元=100円くらいである。物価はペットボトルの水が3元くらいなので、円で考えるととても安く感じる。

## 広東財経大学留学レポート

私は、中国の広東財経大学へ留学しました。広州は食の都であり、留学先として魅力的であったため、志望して行きました。ゼミの教授が中国の方であり、もともと中国経済に興味があったため、留学先で中国経済を肌で感じてみたいと思っていました。実際、現地で過ごしてみると、食べ物は日本人の口に合っておりとても美味しく、「食は広州にあり！」という言葉も間違いではないと感じました。

企業訪問では、日本から中国に進出している企業へ見学に行きました。工場の中では数々の IT 技術が使われており、実際に目で見て、肌で感じることができ、とても良い経験になりました。質疑応答の際には、仕事をしていく中での日本との違いや難しさを教えていただきました。言語文化の違いによりコミュニケーションのとり方、仕事の教え方が大変なことを知りました。

留学先で生活する中で日本企業や、欧米企業が多く進出しており利用機会もありました。日本人として嬉しかったことは、無印良品などが現地の人々に利用されているということです。クオリティの違いというものを現地の人々も知っており、日本製は質が良い（けど高い）というコメントは多くの友達から聞きました。

現地では、多くの学生と友達になりました。そして文化の違いを多く実感しました。バックグラウンドが違えば、立ち居振る舞い、性格も違ってくる、そのような当然のことを、国境を越えた多くの方々と交流することで実感いたしました。日本にいただけでは体験できないことであり、とても貴重な体験であったと思います。たとえば、日本人は食事の前に『いただきます』と言わなければ胸が痛みますが、ほかの国では言わなかったりします。そういった文化の違いがあっても、考え方が違うのは当たり前だ、と考えられるようになったことは、留学で得た収穫だと思います。

今回の留学で語学の大切さを実感しました。当たり前ですが、現地では知らない言語が飛び交っており、自由時間に店に入るのも戸惑っておりました。次回行く機会があるならば、もう少し言語の学習をしていけば中国の見え方も換わってくるのではないかと感じます。最後に、広東財経大学の教員・学生、ならびに、今回の留学を企画して下さい方々、貴重な経験をする機会を頂き、とても感謝しています。ありがとうございました。

## 広東財經大学短期留学プログラムを終えて

今回お世話になった広東財經大学は中国広東省広州市にある大学で、広大な敷地内には学生寮や食堂、コンビニや銀行などがあり、その中には私達が宿泊したホテルもある。いわば1つの町がそこにあるといった感じだ。図書館や教室も大きく広いのだが、ある学生曰く「中国の大学の中では狭いほう」というのだから驚きである。さらに驚いたのが日本語学科の学生の数と日本語のレベルが高いという事だ。会話は普通に成り立つ程である。また交流の時間などには「日本の文化」「日本で流行している事」「東京の事」など目を輝かせながらどんどん質問してくる。皆日本に憧れがあり日本の事が好きだと感じた。そこには反日なんて言葉は存在しない。それだけでは無い。今回訪問させて頂いた明治アイスクリーム、広汽トヨタ自動車では以前の反日デモの影響は無かったという。またどちらの企業の製品も中国ではかなりの評判で、町にはトヨタ車がたくさん走り、明治のアイスクリームはコンビニなどでよく目にした。香港の近くという事で外からの情報が流れてくる事もあるのだろうが、こと広州において反日思想というものを感じる事はなかった。

行く場所行く場所で私達を暖かく迎えてくれた事は本当に嬉しかった。特に広東財經大学の学生達には感謝しかない。学内の案内や学食の使い方、私達の歓迎会の企画や運営、そして5日目の広州市内散策では、施設や建物の説明を私達にしてくれた。前もって入念に準備してくれたのだそうでありがたかったし嬉しかった。夜には近くの店で美味しい料理をお互いに話しながら食べて交流する事もできた。今回のプログラムを楽しく終わられたのはやはり広東財經大学の学生達のおかげであるといっても過言ではないだろう。だからこそ今回8人の広東財經大学の学生が多摩大学に交換留学生としてやってくる。彼、彼女らに日本で過ごした時間がとても素晴らしいものとなるように私達がサポートできる事はしないと、と思った。

まだまだ感じた事はたくさんあるのだが、やはり今回感じた一番の事は「人の暖かさ」だ。意外と思う人もいるだろう。PM2.5、反日、マナーが悪いなどのイメージを持っている人はいるはずだ。日本のニュースではそれくらいしか伝えないのだからそれがリアルであると思いついでいる人は多いはずだ。しかし本当の中国、広州は、環境はそんなに悪くないし反日思想も無い。少しマナーは悪いが・・・、それ以上に暖かい人々に笑顔が溢れ料理は美味しい。これがリアルであり日本のニュースだけでの思い込みは間違いである。思い込みだけで過ごすのはもったいない。是非他の人たちにも中国へ足を運んで欲しいと思う。必ずイメージは変わると思うからだ。

最後にバートル先生をはじめとした多摩大学の教員の方々、広東財經大学の教員の方々、学生、バスの運転手さんなど関わって頂いた全ての人に感謝したい。「ありがとうございました」「谢谢」。

## 中国留学レポート

### ●行く前の印象

日本にいる時の情報としては、ニュースやネット等で見ていた印象しかなかった。それは、環境汚染であったり、反日感情渦巻く環境であったりと様々だ。経済面でも最近はやよよに落ち込んでいるという話も出ていたので暗い印象が頭の中にはあった。しかし、大学では、バートル先生が中国人はそのような雰囲気は少しもないとおっしゃっていたので是非自分の目で見たいと思っていた。最近私は、ドイツとフランスに行っており日本がとてもキレイで安全な国であるという印象は間違っていないと思った。中国は行く前からそういう面では遅れているという印象だった。

### ●街並みと道路

街並みはあまりキレイであるとは言えない。大学の前の屋台街は仕方がないが、乱雑に建てられた高層マンション群とそこにある廃墟のようなマンションが入り乱れており、土地が狭く地震が多い日本ではあまり見られない光景だった。また、ナイトクルーズで見た広州タワー周辺は日本と変わらない建物が建てられていたがそこまで行く途中の建物はあまり発展していないといえる。道路はもう少し舗装してほしいと思う。また、車を運転している人の意識をもう少し改善したほうが良いと思った。街並みと道路が一番中国らしさを感じられた部分といっても過言ではないであろう。

### ●企業訪問

今回訪問した3つの企業は、「明治アイスクリーム」、「广汽トヨタ」、「Foxconn」である。日本の明治とトヨタは地元の人を中心に会社を回していき、積極的に意見を聞き入れていくスタイルをとっていた。また、日本人のように素直に命令を聞く人がいなくて、なぜそれをやらなければいけないのか説明をし、納得しない限りその頼まれた仕事はしないらしい。これは、日本人にも必要なのではないかと思った。Foxconnではhardworkが常に求められており働く時間は16時間で日本では完全にブラック企業だと思う。その日本ではブラック企業とされる企業にシャープが買収されたというなんとも言えない感じである。

### ●学生

日本語学科の学生としか交流を深めていないが、皆学習意欲が高くアルバイトもしていないらしい。大体1か月に使うお金が1000元、日本円にすると約15,000円と日本では考えられない生活費だと思う。物価が違うので致し方ないと思うが、日本に留学していた学生に話を聞くと物価は高いが日本での生活の方が充実していたと言っていた。また、アルバイトもしていないので生活費や学費は全て親が出してくれると言っていた。やはり、中国では日本より親がどれだけ稼いでいるのかによって大学に行けるか否かがきまり、とても重要なことなんだろうかと思った。

### ●現地の人

いろいろとファンキーな方が多いように感じた。上半身裸は仕方がないにしても、高速道路を自転車で駆け抜けていたり、歩道が用意されているのにも関わらず4車線の一般道路の真ん中を自転車で走っていたりと、あまり先進国では見ない光景だった。

### ●食事

食事は好き嫌いがハッキリ分かれる料理だった。舌に合う料理には箸がすすむが、一方、あまり舌に合わない料理は皿に盛られている料理の量が減らないというのが常であった。やはり、日本の味が合っているなど感じた。

### ●まとめ

今回は団体で行ったが、次回行く機会があれば個人で旅行したいと思う。また、中国の学生とも連絡はできるので中国語を教えてもらいたいなど思っている。

## 短期留学プログラム参加報告書

今回、広東財経大学と多摩大学との文化交流として、5泊6日の短期留学に参加した。広東財経大学は、中国広州にある総合大学である。いわゆる大学のレベルとしては、日本国内における日本大学や駒澤大学といったような位置にあることが、学生の話から推測される。しかし、大学の施設設備といった点や、学生のレベルなどを見るに中国有数の大学といわれても違和感を覚えるものではなかった。たとえば図書館などは、多摩大学のすべてが入ってしまいそうなほど大きく、全館冷房が効き本以外にも多様なメディアを利用できる。また、今回宿泊したホテルも大学内のものである。本プログラムに参加し多摩大生を案内してくれた学生は、財経大学内でも比較的優秀な部類であったことを差し引いても、日本語や英語などに堪能で、日本の文化を理解した上での交流を行えるといった事実から、その優秀さを伺えるものであった。このことから、中国最高の大学といわれる北京大学では、いったいどれほどすごいのかと考えると同時に、中国の人材の多様性と教育への力の入れ方が、現在の中国を形作っているのだと思った。

このように、大変恵まれた留学環境であったため、期間中余裕を持って、過ごすことができた。大学外での行動でも、財経大学の学生が積極的に案内してくれた。現地学生間では大学から出てすぐそこに広がっている繁華街を墮落街と呼んでいて、学生はよくそこで食事や買い物をするようで、私自身も何度か財経大学生の案内で食事や買い物をする機会に恵まれた。この時に得られた知見は多々あるが、物価に関することは特に興味深かったと感じた。

今回、行った地域では、一食がおよそ10元前後であり、ワンタンメンやチャーハンといった十分に腹が満たされるものを食べることができる。これに対し奇妙だと感じたのがアイス類の価格についてである。ある店では、中国の明治アイスクリームで生産された製品が7円で売られていた。後に行った明治ではこの価格について、流通コストとマーケティング戦略が影響していると説明していた。この価格は一食に掛ける金額と比較すると感覚的には高く感じる。しかし、明治はこの地域で大きな成功を収めている。これはこの価格でアイスを販売することが受け入れられているということである。このことから、あるものに対する人々が感じる価値が、ビジネス的な都合である流通などによって大きく影響を受けるのだと、当たり前のことながら実感した。

これ以外にも、ホンハイでは人件費が比較的安いとされる中国でさえ無人化を進めていることや、中国のひとが思ったよりもアニメを見ていることなど興味深いことは多々あった。しかし今回の留学を統括して何がよかったかといえば、中国が魅力的な国であると実感できたことである。

## 広東財経大学 中国留学報告書

中国での工場見学や広東財経大学の日本語学科の学生と交流することで様々なことを学ぶことができた。去年は台湾の開南大学に 2 週間の短期留学に行ったが、その時とは違うことも多く学ぶことができた。去年の短期留学と今年の中国研修で共通して言えることは日本の学生よりも台湾と中国の学生のほうが勉強に対してまじめに取り組んでいることである。広東財経大学の学生は朝の 8 時から夜の 22 時まで授業があることがあるそうだ。また、第 2 学位というものがあるらしく、日本語の勉強の他にも数学の勉強量も多いと言っていた。日本の学生と比べると勉強量の差や学ぶことに対する意識の差がとてもあると感じた。

中国と日本の関係は領土問題などあるため、行く前には少し不安があった。交流する学生は日本語学科の学生だから親日家だから大丈夫だと思っていたが、他の学生や街の人たちは日本人だと分かったらどのような反応をするのか不安だった。しかし、現地の夜市では簡単な英語や中国語でわかりやすく伝えてくれ、日本語学科ではない学生とも交流することができた。中国に実際に行ってみないと分からないことが多くあった。

工場見学では明治アイスクリーム広州工場、好汽トヨタ広州工場、深圳にあるホンハイ工場に行くことができた。工場見学は小学生の時以来で懐かしい感じがした。だが、小学生の時の見ている目線と現在の目線は違ったため、工場見学で新しい多くのことを学んだ。明治アイスクリームと好汽トヨタは日本の会社のため、重役には日本人を置くことが多かった。明治アイスクリームの工場は製造ラインが止まっていたため、アイスクリームを作っているところは見ることができなかったが、工場長とアイスの作り方で気を付けていることや素朴な疑問など様々なことを聞くことができた。好汽トヨタでは車の作り方を近くで見ることができ、日本では見たことのない車が多くあったため、車を見ているだけでも楽しむことができるくらいだった。また、広汽トヨタでは合弁会社の仕組みや中国での自動車業界の話聞くことができた。ホンハイ工場では会社の仕組みだけでなく、会社に求められる力や能力の話まで話していただき、今後の就職で活かすことができるような話を聞くことができた。深圳市内は一つの国のような感じで何でも市内にあるのではないかと思うほどであった。日本にも京浜工業地帯をはじめ、工場が密集しているところは多いが、ここまで様々なものがあり、充実していないのではないかと思った。工場見学を通じて日本では知ることができないことや新しい発見をすることができたのではないかと思った。

中国に行く前にプレゼンテーションの資料作りをしなくてはいけなかったが、その時にチームメイトとの協力や一丸となって一つのものを上げることの大変さを知ることができた。また、発表した際に広東財経大学の学生にわかりやすく伝えるためにどうやって話すのか、興味をひかせるために自分なりに工夫してみたが、いまひとつ上手に伝えることができなかった。今後も海外の学生と交流してみたいと思っているため、今回のプレゼンテーションの反省点を活かしていきたい。

## 中国留学プログラム参加報告

今回の留学プログラムは、私にとってかけがえのない、とても良い経験になりました。各日に用意されていた現地の企業訪問もちろんそうですが、それ以上に広東財經大学の学生の皆さんとの交流、現地の街並みの様子、自分の目で見たものの全てが私の人生の大きな財産になりましたし、これからの大学生活、将来に向けての選択肢も増えたような気がする有意義な留学であったと思います。

企業訪問では主に日本でも展開されている企業を中心に見学させていただきました。主に印象に残っていることは、明治のアイスクリーム工場に見学に行った際、国籍、考え方の違う人々に対してどうやって指示を出しているのかということです。日本人は基本的にトップダウンで目上の方の指示に素直に従いますが、現地ではそうはいかないそうです。従業員は自分の考えをしっかりと持って、指示の意図・利益をしっかりと説明しないと行動に移さないと聞いて、日本と中国の働き方はやはり違うのだなと思いました。私もちょうどそのとき同じような問題で悩んでいたのも、とてもいいお話を伺えましたし、グローバルな社会で生きていくためのヒントをまた一つもらえました。

広東財經大学の生活では、現地の学生の意識の高さ、講義に対しての姿勢、そして歓迎の心、少ない滞在期間の中で様々なことを学びました。広東財經大学では、2回ほど現地の学生とともに講義を受ける機会がありましたが、全て日本語のなか、少人数でとても内容の濃い講義を行っていました。生徒一人一人が話の内容をしっかりと理解しようとしてとてもレベルの高い講義内容で驚きましたし、中国語で講義をしているわけでもないのにとても専門的なことを学んでいることに衝撃を受けました。

両大学生によるプレゼンテーションでは、日本人よりも日本のことをよく知っているのではないと思うくらい、日本のことを勉強していて、日本ではありえないような質問をしてくる学生も多く、固定概念にとらわれないとても新鮮な講義を受けられて、とても楽しかったです。

4日目に行われた学生主催によるパーティでは、現地学生との交流もそうですが、向こうの方々のおもてなしの心にとっても感動しました。早くに準備をしてくれていたのか、教室の一室がパーティ会場として様変わりしていましたし、中国の伝統文化、みんなが楽しめる催し物をたくさん用意してくださっていました。日本ではこういった学生によるすべての歓迎会というのはあまりないので、とても楽しかったし、皆さんの歓迎する心がとても嬉しかったです。本当に今回の留学でお世話になった教員、現地の方々には感謝が尽きません。今回の経験をバネに、これからの自分の考え方、生き方、行動をもう一度見つめなおし、新たなことに挑戦していきたいと思います。

## 広東財經大学留学プログラム参加報告書

広東財經大学への短期留学は、本当に楽しかったです。約一週間という短い間でしたが、とても良い経験を積むことができました。そもそも、中国へ行こうと思った理由は友人に会いたかったからです。そんな単純な理由で、私は今回のプログラムに参加しました。結局、その友人には会うことはできなかったのですが、それ以上に今回得たものは大きかったです。

私は中国語の授業を履修していないので、中国語を挨拶程度しか話せない状態で羽田空港を出発しました。事前の面談で中国語を話せませんと先生に伝えたところ、先生からは広東財經大学の学生は日本語を話してくれるから大丈夫だよと言われ、すっかり安心して何も勉強せずに中国へ行きました。たしかに、授業は日本語で行われているし、観光案内も日本語でしてくれるのでとても楽しく過ごすことができました。しかし、ずっと日本語ばかりではありませんでした。コンビニエンスストアの会計時、お金を支払ったら店員さんにすごい勢いで何か言われました。英語で聞き返しても、返ってくるのは中国語でした。お互い何を言っているのか全く分からず、結局無言でその場を立ち去りました。この瞬間、中国語を勉強しておけば良かったなと痛感しました。その他にも、何かを注文するときやお願いするときなど様々な場面で中国語を勉強しておけば良かったなということがありました。結局のところ、英語が通じたのはホテルのフロントとコーヒーショップだけでした。基本的な中国語が話せたらもっと楽しかっただろうなと思いました。

また、今回のプログラムには企業訪問が含まれていました。企業訪問は、本当に刺激のためになるものばかりでした。今回訪れた企業は、日本にとっても関係が深い会社ばかりでした。その会社で働いている日本人社員の方に直接質問をすることができ、貴重なお話を伺うことができました。今回企業訪問をさせていただいて感じたことは、どの企業も従業員を大切にしているということです。そのための様々な工夫を今回の企業訪問で垣間見ることができました。私が思っている以上に、会社は従業員に期待していることに驚きました。だからこそ、就職をする前のこの学生の時期を有意義に過ごさなければならないと思いました。

総括すると、とにかく楽しかったです。中国は人が多く、毎日がお祭りのようにビルが派手にライトアップされていて、熱気に溢れているそんな国でした。今回のプログラムに参加できて、本当に良かったです。ありがとうございました！



## 広東財經大學プログラム

今回の中国広東財經大學プログラム6日間、私は自分なりにかなり成長しました。日本で体験出来ない事や、文化の違い、食の事など様々なことを知りました。1日目、中国に到着し、空港を出て、最初に思ったことは空気、匂いでした。その匂いはなんとも言えないような匂いであり、中国ならではの匂いだと思います。空港からバスで宿泊地に向かう。バスに乗っている間、外の景色を見ていると私が想像していた通りのボロボロの家や屋台、雰囲気が予想通りでテンションが上がりました。ホテルに着き、バスを降りると広東財經大學の学生たちが出迎えてくれました。その後、広東財經大學の中を案内してくれました。多摩大学と比べられないくらい大きい大学で、数え切れないくらいのたくさんの学生もいました。そして夜は、友人と大学の敷地内を出て外の方に行きました。外に行くと、屋台がたくさんあり、凄く賑やかです。私はそこで屋台に売っているフルーツ、桃とマンゴーを食べましたが、日本と比べるとあまり甘味がなく、酸味が強くてフルーツ自体が硬かったです。初日はそこで終了しました。

2日目は広東財經大學の先生たちの講義を受けさせてもらいました。第一講義は日本経済専門の呉先生の講義です。テーマは日本の円高、円安についてお話を聞かせてもらいました。お金は最初、貝や塩から始まり、後々に金や銀に変わり最終的にお金になっていったお話など聞かせていただきました。日本語がとてもお上手でした。その後、講義が終わって昼食を済まし、多摩大学の学生と明治アイスクリームの工場見学に行きました。工場見学では、作り方についてお話を聞けました。

3日目はトヨタの自動車工場見学でしたが、初日に食べたフルーツで食中毒になり、ホテルでお休みでした。その日の夜は、樋口先生の講義があり、出席しました。内容は文章について、作文の書き方や小論文の書き方など説明していただきました。樋口先生のお話は、ブレインコントロールされている感じでとても自分のためになりました。

4日目は富士康集団を訪問しました。富士康では採用についてお話を聞きましたが、採用については7つの人材要件があるとのことでした。その7つとは、パーソナリティ、志、心構え、ハードワーク、経験、教育、スキルです。年間100万人の従業員を採用してきたので、20年経って2000万人を採用したことになります。こういったお話を聞けました。夕方は広東財經大學の人たちがパーティを開催してくれました。多摩大学と広東財經大學の学生たちが交流出来るよう、セッティングされていました。そのパーティでは色々な出しものを披露したり、歌を歌ったりと、すごく楽しかったです。

5日目は広東の観光地に行きました。財經大學の先生や学生と一緒にいき、グループに分かれて、案内していただきました。中国に来て初めての観光、そして初めての自由行動、本当に嬉しかったです。そこではあたらしい友達にも出会い、中国人の優しさを肌で感じました。その日の夜、バートル先生と樋口先生で中国のマッサージに3人でいき、疲労がとれました。

6日目は日本に帰国する日です。今回、6日間中国に行って、様々なことがわかりました。中国人の性格や、食文化、トイレなど色々知れました。このプログラムをきっかけに半年間の留学がもっと楽しみになりました。ありがとうございました。

## 広東財經大学短期留学プログラムの参加報告

### 1. 報告

今回の広東財經大学短期留学プログラムは、5泊6日(9.11~9.16)で行われました。内容としては、中国で活躍している企業(明治アイスクリーム、广汽トヨタ自動車、深圳市ホンハイ)の工場の見学やお世話になった広東財經大学の学生との交流、広東財經大学の先生方の講義、そして、市内見学などを行いました。

初日は、空港から大学内のホテルに着いた後に校内見学を行い、夜ご飯を兼ねて歓迎会が行われました。本格的な中国料理を経験し、香辛料のつらさを味わいました。2日目は、午前中に広東財經大学の先生方の講義を受け、中国での授業風景を体験することができました。午後には、明治アイスクリームの工場を見学させていただきました。中国人の従業員に日本のやり方を説く難しさを知りました。夜には、珠江ナイトクルーズを行い、中国の大都市の夜景を堪能しました。

3日目は、午前中に广汽トヨタ自動車の工場を見学させていただきました。ここでは、广汽トヨタ自動車は、広州广汽とトヨタの合弁会社ということでお互いの企業の主張を通すには根気が必要ということを知りました。そして午後からは、日中大学生による発表会が行われました。中国の学生が発表に向けて取り組んできた姿勢などは、自分達も見習うところがあると感じました。

4日目は、午前から午後にかけて深圳市にあるホンハイの工場を見学させていただきました。ホンハイといえば日本の大企業だったシャープを買収して有名になった企業です。その企業がどのような事業を行っていたのかを知りました。そして夜には中国の学生達が企画してくれていた交流パーティが開催されました。中国ならではの歓迎を受けてとても楽しい思い出になりました。

5日目は、1日かけてじっくり広州市内の観光をしました。中国の歴史や有名な観光地を見て回ることができていい経験になりました。そして最終日、日本に帰国しました。

### 2. 感想

今回の留学プログラムをやると思ったきっかけとして、多摩大学で知り合った中国人留学生の影響がありました。その留学生に「このようなプログラムがあるから来ないか?」と言われてからこのプログラムがあることを知りました。しかし、中国という国への偏見からか、全然乗り気ではありませんでした。日本のニュースなどで見られる中国国内に対する印象があまりいいものではなかったからです。しかし、自分の視野が狭かったのだと中国に来てから気づかされました。

自分達が広東財經大学に着いて、学生達と触れ合い、授業を受けることで学生達にある雰囲気を感じました。それは、「日本人の学生から色々と日本のことを学びたい。」という雰囲気です。日本語を学んでいる学生達ばかりだったので、日本に対しての偏見もありませんでした。日本語しかしゃべれない自分にも伝わるように言葉を選びながら話してくれました。我々を客人のようにもてなし、とても行動しやすい環境を作ってくれました。これらの経験から視野の狭さを知り、人間って国籍どうこうではないのだということを感じました。今度は日本に来た学生をもてなすことができたらなと思いました。

## 短期海外留学プログラム報告書

今回の広東財経大学短期海外留学プログラムでは、5泊6日と短期ではあったが、たくさんの人とかかわり、自分自身の身になることを多く学びました。今回の短期留学に行くにあたり、初めは家族以外で行く海外に少し不安を覚えていました。しかし、出発前に先輩たちが優しく接してくれたことで不安はなくなっていきました。現地に着いたとき、ホテルで中国の学生と会い話す時間があり、彼らは私たち日本人を温かく迎えてくれました。その後も、初日であるにも関わらず色々なことを話し、中国についてたくさんの事を教えてもらいました。その後は現地学生とますます仲良くなって夜ご飯を一緒に食べに行くことも多くなりました。さらに現地学生との交流を深めることで、ともに留学に参加した人とも仲良くなることができました。たくさんの人と会話をする機会が増え、人とかかわりはこれからの人脈づくりにとても大切なものだと感じました。

中国にある企業にお邪魔させていただく機会もたくさんありました。明治アイスでは安心、安全、高品質を重点的にアイスの製造をしていて、実際に作ったアイスの試食もさせて頂きました。トヨタでは、先進的な技術を導入し、効率よく作業を進めるほかに人材教育に力を入れている事を知りました。FOXCONNにお邪魔したときは、工場の広さに驚きを隠せず思わず声が出てしまうほどでした。

その他にも広州市内の観光もしました。夜のナイトクルーズは広州の綺麗な夜景を船の上から眺めることができ、船で食べる食べ物もおいしかったです。観光地を回ったあと、商店街を自由に回るときは、現地の学生に案内してもらって楽しく観光し、いいお土産や美味しいお店でご飯を食べることが出来てとても有意義でした。四日目の夜のパーティではたくさんの学生とお話しし、たくさんの企画を用意してもらい我々日本人を温かく迎えてくれていると感じ、とても楽しい時間を過ごせました。

この海外留学で私が一番印象的だったことは、講義のときです。中国の学生は講義を受けているとき、しっかりと人の話を聞いていました。教授の講義の時やプレゼンのときは、私たちの発表を最後までしっかりと聞き、日本についての質問をたくさんしてくれました。また、公開講義に参加していた学生の勉強をする姿勢に驚きました。日本語の文を書く講義で、つたないながらもしっかりとした日本語で自分の書いた文を読む姿には感動しました。この留学は初め不安なことだらけでしたが、先生のサポートやそれ以上に学生との交流で共に笑い、共に学ぶことの楽しさを知ることができたと感じます。この留学を通して、人とのコミュニケーションの大切さを再認識し、これからの自分に活かしていきたいと思いません。

## 中国留学留学報告書

私は夏休みの約一週間、中国の広東に留学しました。何か良い経験になるかと友達と中国に行くことを決めました。中国へ行く前はあまり中国に対するイメージはよくありませんでした。しかし、中国へ行き約一週間過ごしてみると、イメージが変わりました。

中国へ行った初日、歓迎会を行いました。そこでは四大中華である広東料理を食べました。日本とは食文化が全く違いました。食べ物の量が多く、まず食べきれません。中国では料理を最後まで食べる文化がありません。そのため、現地の学生に「最後まで料理を食べるのは日本の文化ですか？」と聞かれました。中華料理は日本に馴染みがあって、日本人でも食べやすかったです。

2日目、広東財経大学の授業見学をしました。日本語学科の学生たちで日本語が非常に上手でした。現地の学生と話すときに私たちが事前に勉強した中国語や英語は必要ありませんでした。また、講義中のほとんどが日本語であり、大変驚きました。全員が理解していて、私も見習わなければならないと感じました。もし私が受ける講義すべてが英語だったら、理解できないでしょう。そう思ったとき、中国の人は勉強を熱心に行っているのだと感心しました。午後には明治アイスクリームに訪問させていただきました。明治は海外進出して、世界に明治製品を広げています。中国の食品にはあまり良いイメージがありません。そのことについて聞いてみると、中国の明治アイスクリームは原材料から入念に品質を調べており、原材料については日本のモノより良いモノを使っていると聞きました。そして、日本の明治アイスクリームよりもおいしいと言っておられました。試食させていただきましたが、おっしゃっていた通り、日本の明治アイスクリームとほとんど変わりませんでした。最後に今後の目標について聞いてみると、「まだアイスクリームなど一部のモノしか海外で売れていないので、明治全体の商品を中国で売れるようにしたい」と言っておられました。

3日目は广汽トヨタに訪問させていただきました。日本のトヨタとの合弁企業です。自動車会社だけあって、とてもしっかりとした組織でした。人の安全に関わる仕事なので、一つのミスもないようにしているのだと感じました。午後からは日中大学生による発表会を行いました。日本とは違った中国の文化を知ることができました。現地の学生が日本の文化に興味をもってもらえて、非常に嬉しかったです。また中国の人と関わり合えてよかったです。

3日目は富士康集団に訪問させていただきました。日本の SHARP を買収した富士康集団が非常に大きかったです。敷地内がでかくバスでガイドしてもらいました。iPhone なども作られており、とても興味を持ちました。中国の成長ぶりがわかる訪問でした。

最後に現地で案内や通訳をしてくださった広東財経大学の先生、学生みなさんに感謝したいです。現地の学生はとても日本語がうまく、私たちに親切でした。ここで紹介できたのはほんの一部ですが、中国に魅力を持たせたいと行ってみてはいかがでしょうか。

## 中国留学報告書

広東財經大学の学生はとても優しく、学びのある1週間だった。

## 1 日目

空港から出ると大雨だったので、1週間の心配をした。高速に乗りホテルに向かう途中、中国に来たのだと感じた。中国の道路では、割り込むのが当たり前で、高速道路におばあちゃんが自転車で走っているのを見たとき、思わず笑ってしまった。町並みは、映画や写真で見たような建物で、窓には侵入防止の鉄格子が付いていた。

大学の中にホテルがあった。ホテルがあることに驚いたが、それよりも大学の大きさに衝撃を受けた。大きいと言われている大学に遊びに行ったことがあるが、その大学の何倍も大きかった。校舎を案内してもらった。

## 2 日目

通訳の講義と日本の円安と円高の講義を受けた。円安と円高の講義は知っていたこともあり話は聞きやすかったが、通訳の講義は日本語で話していたのに途中から何を言っているのかわからなかった。素直に凄いと思った。

明治アイスクリーム工場ではビデオ、工場見学、アイスクリームの試食、質疑応答の順でプログラムが進んだ。国が違えば味覚も違う、中国のアイスは日本より濃い味や何とも言えない味が多かった。

夜のナイトクルーズではビルの光やマンションの光が輝いてみえた。広州タワーは特に綺麗で七色に光ると、昼間とはまた違う存在感だった。

## 3 日目

广汽トヨタの工場見学は凄かった。車の生産ラインを見ることができてとても刺激的だった。工場はものすごく広くて、約1万人の社員が働いている。辞めていく人がいても、会社がリストラする事はないそうだ。

午後のプレゼンは、ものすごく緊張した。練習をしたはずなのだが、60人に見られたら頭が真っ白になり何を話せばいいのかわからなくなり、うまくいかなかった。今後は、より多く練習し、発表して、場数を踏んでいきたい。

中国の学生は日本語がとても上手い、言葉は多少間違っているけど、一生懸命話して凄く伝わる。パワーポイントやプレゼンがものすごく作りこまれており学生のレベルの高さを感じた。

## 4 日目

ホンハイの工場に行った。中秋節の1日目という事もあり、渋滞がひどく到着が大幅に遅れてしまった。ホンハイは社員育成に力を入れていることが分かった。

プリンターのインクを作る生産ラインを見せてもらった。すべて機械化していて人間の仕事は機械が故障したら直すことなどで、少人数の人間だけが働いていた。機械での自動化は、凄まじかった。

学校に戻ると、広東財經大学と多摩大学の学生交流会を開いて貰った。楽器演奏、ゲームの時間などのたくさんのプログラムを用意してくれていた。よく考え、練られていた。日本の学生と仲良くなりたい。そんな、気持ちが凄く伝わってきた。とても楽しい時間を作ってくれたことに、ありがとうと感謝をしたい。

## 5 日目

広州で一番古い商店街や陳氏書院に行った。中でも陳氏書院は感動した。建築物や美術品などが好きなので、圧倒されっぱなしだった。特に貝で作られた、描かれたと言っていいほど綺麗な絵は驚きと感動を与えてくれた。今回はガイドさんがいたので見る時間が少なかったが次に来たときは、もう少し長く見たいと思った。

今回の短期留学はかなり刺激的で今までの価値観や視野が広がった気がした。また、中国学生の学習時間の多さに、今までの自分が恥ずかしくなった。これからは学習時間を増やし、質も高めていこうと思う。すごくいい経験になった。

## 広東財経大学短期留学プログラム

今回 9 月 11 日～9 月 16 日までの 5 泊 6 日の中国・広東財経大学短期留学プログラムに参加しました。外国人に対して自分たちが普段使っている日本語の伝え方の難しさ、中国の大学生の勉強に対する真面目さ、中国での文化など様々なことを経験しました。5 泊 6 日という短い期間でしたが、この留学は、大変貴重な体験になったと思っています。

私たちは、多摩大学で 4 グループと広東財経大学で 6 グループに分かれてプレゼンテーションを行いました。私たち多摩大学のグループは、「日本文化」、「日本の食べ物」、「観光」、「日本の企業」に別れてプレゼンテーションを行いました。私がプレゼンテーションを行ったのは、日本の企業ユニクロについてです。プレゼンテーション前は、ユニクロは中国でも多くの方が着ていて知っていると思っていました。しかし、実際にプレゼンテーションを行うと反応がいまひとつでした。原因は、自分たち目線で文章を作っていたことと、中国の大学生をお金持ちの子供たちだと思い、ユニクロなどを着ているだろうという推測でユニクロについて企画したことです。反省としては、自分たち目線で文章を作っていたため、難しいビジネス用語や日本語をもっと簡略化すべきだと思いました。さらに、中国の留学生などにきいて大学生がユニクロを着ているカリサーチなどを行うべきだと思いました。また、このような外国人に対してなにかをプレゼンテーションするといった機会があれば、今回の体験を活かして外国人に伝わりやすい日本語でプレゼンテーションを行おうと思っています。

夜には、広東財経大学の大学生と交流会などをしました。広東財経大学の大学生に驚いたことは、勉強でした。大学 2 年生で日本語が話せたりしている学生などがいて聞いてみると日本語を勉強し始めたのは大学 1 年生からと聞き、約 1 年半程度しかたっていないのに、話せていてとても驚きました。そしてなによりとてもフレンドリーで親切なことに驚きました。私は中国で財布を無くして、広東財経大学の日本語学科の大学生が数名一緒に探してくれ、一人は交番まで付いてきて通訳をしてくれたことにとても感謝しています。結局財布は見つかりませんが、この交流は大変貴重な体験だったと思っています。私には、今回の中国・広東財経大学プログラムは多くの刺激と貴重な体験になりました。中国の大学生に刺激を受け帰国後は、語学勉強をもっとがんばろうと思いました。そして自分のプレゼンテーションの仕方なども考えるようになりました。今回は、5 泊 6 日といった短期留学でしたが、もしまた留学をする機会があれば、3 ヶ月以上の長期留学にトライして語学をもっと伸ばしてみたいなと思っています。